

2024 年度ゼミ（演習 1）要覧

担当者名	岩村英之
演習テーマ	AI（人工知能）と社会
演習の内容	<p>これから数十年間で、AI（人工知能）が私たちの社会に大きな変化をもたらすと言われています。すでに、これまで「人間にしかできない」と考えられてきたタスク—自動車の運転や異なる言語間の翻訳など—が、AIによって実用に耐えるレベルで実行できるようになってきています。数年前には、アメリカに存在する職業の47パーセントが数十年のうちに機械やコンピュータによって自動化されるリスクがある、という衝撃的な研究が話題になりました。本当に、半分の仕事が機械に取って代わられるのでしょうか。そうなつたら、私たちは何をして生活の糧を得るのでしょうか。この演習では、AIが私たちの仕事や生活、社会全般に及ぼす影響について考えてていきます。そして、わたしたちひとりひとりがAI社会にどう備えることができるかも考えてみましょう。具体的な問い合わせとしては、たとえば以下のようなものがあり得るでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) AIに代替されやすい仕事、されにくい仕事はどんなものか。 (2) 仕事や生活でAIをどのように活用できるか（味方につけられるか）。 (3) AIの普及によって社会の仕組み（政治、経済）はどう変わるか。 (4) AIの普及によって私たちは今ほど働かなくてよくなる（働けなくなる）のか。あるいは、ほとんど働かなくてよくなる（働けなくなる）のか。 (5) そうなつたとき、私たちは何をして過ごすのか。そのような社会で何から充実感を得るのか。そもそも生活できるのか。 <p>なお、AIの技術的背景・仕組みについても文系レベルで勉強します。難しい数学は不要ですが、xとyくらいは出てきます。</p>
テキスト・参考書	<p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> [1] 松尾豊（2015）『人工知能は人間を超えるか』（角川 EPUB 選書）KADOKAWA [2] ミッチャエル（2021）『教養としてのAI講義』日経BP [3] サス金ンド（2022）『WORLD WITHOUT WORK：AI時代の新「大きな政府」論』みすず書房 [4] フレイ（2020）『テクノロジーの世界経済史』日経BP [5] 森巧尚（2021）『Python3年生 機械学習のしくみ』翔泳社
成績評価の基準	発表（1～2回）と期末レポートに40点ずつ配分します。残りの20点は、どれだけ独自に勉強したかを、他の発表者へのコメント等から評価します。自分で勉強をすすめることを高く評価します。
校 外 実 習	実施しない

校外実習を実施する場合、実習地・時期、個人負担額	
選考方法	小論文の内容によって判断します。
小論文（テーマ、書式・枚数、提出期限・方法）	<p>【テーマ】</p> <p>(1) おそらく、皆さんは現時点では AI について詳しくは知らないでしょう。そんな皆さん、AI が社会にどのような影響を与えると考えている（心配している、期待している）か説明してください。「エンターテインメントへの影響」などのように、特定のトピックに絞ってもよいです。もちろん、知識を補うために何かを参考にして書いててもよいですが、その場合には必ず参考にしたものを見記してください。</p> <p>(2) そのうえで、ゼミで AI についてどのような勉強をしたいか書いてください。</p> <p>(1) と (2) をあわせて 2000 字前後でまとめてください。</p> <p>【提出方法・期限】</p> <p>Word か PDF の形式で、下記メールアドレスにお送りください。 5月 26 日（日）23 時までに送ってください。</p>
メールアドレス	iwamura@k.meijigakuin.ac.jp
説明会・オフィスアワー	<p>5月 14 日（火）17:00-17:45 8号館4階 842 教室 5月 17 日（金）17:00-17:45 8号館4階 842 教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記で都合がつかない人はメールでご連絡ください。 ・当ゼミを希望される場合は、必ず説明会に参加してください。
履修済・履修中であることが望ましい授業	
2025 年度に在外研究等で演習を開講しない可能性	なし
備考	校外実習は実施しませんが、AI 活用の現場（たとえば自動運転の実証実験等）を見学することを考えています。